

Lyric

リリック カラーズ

Colors

vol.17

2025
10.25発行
TAKE
FREE

スペシャルインタビュー

中村雅俊

特集

文学座公演 昭和虞美人草

東京フィルハーモニー交響楽団事業提携10周年

音楽で心通わせ、育む絆。

注目公演

澤クワルテットコンサート

〜フランススチエロ界の重鎮

アラン・ムニエ氏を迎えて〜

三遊亭白鳥&

桃月庵白酒 二人会

―ダブルホワイト―

昭和虞美人草

舞台写真：宮川舞子



マキノノゾミさんとタッグを組む3作品目となりますが、マキノさんはどのような方ですか？

マキノさんはまず台詞が上手い。それと、題材に対する目の付け所が面白い。おまけに、人間を見る視点がユニークでユーモラスです。第一作は「殿様と私」ですが、題名でお分かりの通り映画「王様と私」が下敷きになっています。原作をうまく利用しながら、江戸から明治時代に生きる人間たちの戸惑いと、喜び、西洋をどう受け止めるかなどの人間ドラマに仕立て上げました。偉人・野口英世のダイナミックな部分に目を付けた2作目の「野口英世物語」。『昭和虞美人草』では時代設定を明治から昭和の40年代に設定することで、現代の私たちにとって切実に感じる劇作品になりました。酒を酌み交わしながら話をするとても面白い人です。

本作のベースとなっている、夏目漱石の「虞美人草」について教えてください。

漱石の「虞美人草」は漱石がプロの作家になって書いた最初の作品です。とても話題になって、「虞美人草浴衣」や「虞美人草せんべい」なども発売されたそうです。ただ、それまでの作品と違って軽妙さに欠けます。それは、大人のロールモデルがいなくなった時代に「大人になる」ということはどういうことか？と読者、特に若者に問いかけた作品だからです。マキノさんはこの小説をいつか舞台化したいと考えていたそうです。それは、登場人物の宗近が仲間の小野を説教する場面が「ばかにいい」と思っていたからです。原作のエッセンスを失わず、70年代のロック音楽が流れる中、青春群像劇「マキノ版・虞美人草」になっています。

「昭和虞美人草」のみどころをお聞かせください

小説「虞美人草」は映画にもなっています。しかし、マキノさんにはそれが「義理と人情の板挟み」といったメロドラマだった。マキノさんとしては舞台化するのをもっと体温の高い洗練とした群像劇として舞台化したかった。そこで、漱石の書いた「明治末期」と重なる「昭和40年代」に置き換え、ロック雑誌の編集にかける若者たちの青春群像劇に仕立て、現代の私たちにの切実な問いかけになるように仕上げました。原作は場所がちこちこに移動しますが、舞台は甲野家の立派な書斎に限定されています。そこで交わされる、対話だけでそれぞれの人間の考え方や、生き方が浮かび上がってくる、台詞劇の醍醐味がこの作品の面白さの特徴です。

「昭和虞美人草」はマキノさんの傑作の1本だと思います。世界中で「分断と対立」が進み「孤立や孤独」が社会問題となっているいま、「私たちはどう生きるか？」「何が大事な事か？」という問いかけが、この作品には含まれていると思います。ただ、堅苦しく問いかけるのではなく、ユーモアも込めています。2007年から結んだリリックホールと劇団のお付き合いで、ワークショップや公演や共同制作を通して、沢山の長岡市民の皆さんと出会いました。芝居を見る温かい目と、厳しい目を持っていく長岡のお客様が、今回どのような反応してくださるかとても楽しみです。

長岡のみなさまへメッセージをお願いします

「昭和虞美人草」はマキノさんの傑作の1本だと思います。世界中で「分断と対立」が進み「孤立や孤独」が社会問題となっているいま、「私たちはどう生きるか？」「何が大事な事か？」という問いかけが、この作品には含まれていると思います。ただ、堅苦しく問いかけるのではなく、ユーモアも込めています。2007年から結んだリリックホールと劇団のお付き合いで、ワークショップや公演や共同制作を通して、沢山の長岡市民の皆さんと出会いました。芝居を見る温かい目と、厳しい目を持っていく長岡のお客様が、今回どのような反応してくださるかとても楽しみです。

演出 西川信廣
文学座演出部所属。1986年、芸術選奨文部大臣新人賞。1994年文部大臣賞、芸術選奨文部大臣賞。1999年文部大臣賞。2006年「おーい機多郎」、2016年「おーい機多郎」で演出を手掛ける。新国立劇場ラ「てかがみ」では演出を手掛ける。新国立劇場演出部副所長。日本劇団協議会会長。日本演出者協会理事。新国立劇場理事。



【プロフィール】
NHK連続テレビ小説「まんてん」をはじめ、舞台のみならず、テレビドラマや映画など、劇作家・演出家として数々の名作を生み出す。令和3年度第72回芸術選奨 文部科学大臣賞を受賞、さらに令和4年秋の紫綬褒章を受章と、その功績が高く評価されている。劇作・脚本・演出・俳優と多岐にわたって活動中。

【プロフィール】
2003年文学座附属演劇研究所入所、劇団公演の初舞台は2006年「オコとオトコ」。2008年に座員となり、2014年に「女の一生」の栄二役に抜擢。「女の一生」では全国各地を巡演。その後「銭陶賞〜七億分の一の奇跡〜」、「熱海殺人事件」、「オセロー」など多くの劇団公演に出演。「昭和虞美人草」は2021年の初演から100ステージを超えて全国を巡演中。

【プロフィール】
2000年文学座附属演劇研究所入所。2005年より文学座座員。「花咲くチェリー」「わが町」(文学座)、「錦織」(ホリプロ)、「小林一茶」(こまつ座)など舞台出演のほか、「フレッシュプリキュア!!」「コクリコ坂から」などアニメの声優としても活躍。近年は教育現場でのワークショップ講師も数多く務める。現在、文学座附属演劇研究所主事。

あらすじ

時は1973年。The Beatles, The Rolling Stones, Led Zeppelinといった70年代ロックにどっぷりと浸かり、大人への階段を上っている途中の若者たちが織り成す悲喜こももも。代議士の息子である甲野欽吾は売れないマニアックなロック雑誌「エピタフ」を刊行している。盟友である宗近、小野、浅井らが編集に携わるとい、いわゆる同人誌的な雑誌であった。ある日、小野と浅井がエピタフを辞めると言い出す。それと同時に甲野の腹違いの妹である藤尾は司法試験のために勉強中である小野に急接近。しかし、小野には郷里に小夜子という許嫁に近い女性がいたのだ。煮え切らない態度の小野に宗近が諭す。「そいつはロックじゃないぜ…」昭和の敗戦から、やがて高度経済成長の絶頂と終焉に向かう時代のうねりの中で錯綜する若者たち。夏目漱石の「虞美人草」をマキノノゾミが翻案し、熱く描いた青春群像劇！

マキノさん、上川路さん、植田さんからメッセージをいただきました！



劇作家
マキノノゾミ

『昭和虞美人草』は夏目漱石の「虞美人草」を翻案して舞台化した作品です。工夫したのは時代を昭和四十年代の終わり、1973年に設定したことです。作中では甲野さんは新しいロック雑誌の編集長をしています。この雑誌のモデルは前年に創刊された『ロッキング・オン』です。ですから、甲野さんは七月に亡くなった渋谷陽一さんをちょっと想像上のモデルにしております。訃報に接してからというもの(いやー、渋谷陽一死んじゃったなあ、もうそんな時代になったんだなあ)と、ある種の感慨に打たれております。そんなふうに、長岡の皆様それぞれの七〇年代の思い出などを思い浮かべながらお楽しみいただけますと幸いです。



宗近役
上川路 啓志
かみかわし ひろゆき

『昭和虞美人草』で僕が演じます宗近くんについて、作者のマキノさん曰く「こんなヤツ現実世界にはまあいらない」。演出の西川さん曰く「直感的」。初演の稽古場でいただいたこの2つの言葉が宗近くんを演じる上での抛り所となっております。現実離れした直感的ヒーロー、長嶋茂雄、アントニオ猪木、赤塚不二夫。時には昭和を代表するヒーローも抛り所に演じております。僕の大きな転換期となった2014年の女の一生の初日が長岡でした。その長岡に奇しくも昭和100年に100ステージを数える『昭和虞美人草』。僕自身のヒーローとなった宗近くんと共に伺えることワクワクしております。



小野役
植田 真介
うえだ しんぺい

ここ数年、講師として長岡市内の小・中学生とたくさん触れ合う機会があり、いつか舞台に立つ姿を観に来てもらえたら——そんな思いを抱いていたところ、2020年に中止となった長岡公演が、この度実現することとなり、大変嬉しく思っております。夏目漱石の「虞美人草」を翻案して描かれたこの作品には、とっても良い台詞・胸を打つ言葉がたくさん出てきます。初演から数えて100ステージ以上重ねてまいりましたが、今でも毎ステージ舞台上で胸を打たれています。1ステージずつ丁寧に磨いてきた、思い入れの深い作品です。皆様のご来場を心よりお待ちしております。どうぞご期待ください。

文学座公演 昭和虞美人草

長岡リリックホール・シアター
11/16日 開場13:00 開演13:30
全席指定 3,000円 U-25 1,000円
※未就学児入場不可 ※U-25をご購入の方は公演当日、年齢確認できるものをお持ちください。

出演／赤司まり子・加納朋之・植田真介・細貝光司・上川路啓志
鹿野真央・高柳絢子・松本祐華・松浦慎太郎・森寧々

アフタートーク開催 終演後 西川信廣(演出)とキャストが本作品について熱く語ります。(15分程度)

スペシャルインタビュー

中村雅俊

—特別な想いを、言葉にのせて。



おとなのための

朗読会

恋文

おとなのための朗読会「恋文」を12月に上演します。可見市文化芸術振興財団の人気企画である『恋文』シリーズは今回で15回目を迎えます。長岡で初めて上演する「恋文」には、中村雅俊さんと真野響子さんが出演されます。2回目の出演となる中村雅俊さんから公演に向けた想いなどお聞きしました。

舞台の魅力について お聞かせください

役者、歌手、ナレーションなど、さまざまなお仕事させていただいていますが、どれも「表現者」という括りに入るのはないかと思えます。ですから、どのお仕事においても、心の中にあるものを人々に伝えることがもつとも大切であり、そこにやりがいを感じます。俺が皆様にお届けするもの全てには強制的なものではなく、受け取る方によって自由に感じていただければ良いと思っっているんです。そういう柔軟さも舞台の魅力のひとつですね。例えば、このシリーズ「恋文」のテーマである「愛」は普遍的で、誰にとつても分かりやすい題材ですが、二つひとつの物語の受け取り方は100人いれば100通りあると思います。そうした寛容性がより豊かな時間を作り出すのではないかと思います。

演劇を始めたきっかけを 教えてください

俺は外交官になることを目標に大学に



「恋文」で大切にしていることは何ですか？

俺はテレビドラマや映画での演技や歌の仕事は数多く経験していますが、舞台



での朗読というのはそれまであまり機会がありませんでした。ですから、初めての「恋文」への出演は、実はかなり緊張していました。朗読といつてもただ恋文を読むだけではなく、舞台袖からステージへと出ていく瞬間から演技が始まるんです。「恋文」を書かれた方を自分なりに想像しながら舞台へと向かうんですね。「演じる」といつても通常のお芝居とはタイプが異なりますので、とても難しかったです。本番の舞台で真野さんが導いてくださった。新しい新たな気持ちがあつたりもしました。ひとつの公演の中で恋文の数だけ演じますので、ひとり何役も担当するのが興味深かったです。

そして、朗読するうえで大切にしていることの一つは「伝えたい」という想いです。舞台では、俺と真野さんの朗読に加え、映像とピアノの即興が重なり合つて客席の皆様がイマジネーションを刺激します。一人ひとりの心に異なる物語が浮かび上がり、その場では生まれない空気が会場を包んでくれるはず。そうした相乗効果で、特別な時間を過ごしていただけたら良いです。

また、俺個人的な想いとしては、今回は2回目ですから過度に緊張せず臨みたいですね。ただ、「緊張」というとネガティブな響きがありますが、必ずしもそうではないと思うんです。適度な緊張は集中力を高めてくれる、大切な感情だと思います。適度な緊張感を持ちつつもリラックスして取り組みたいです。

公演に寄せて

「恋文」に2度目のタグを組む、中村さん、真野さん、演出のラサール石井さんの3人からコメントをご紹介します。

真野響子



どの手紙の中にも自分の片鱗があり、今まで生きてきた人生のある瞬間を彷彿とさせられることがあります。それを温めながら幾度も読み返していくと、だんだん手紙の書き手に近づいてくるのは、役作りととても良く似ています。隣で雅俊さんの素敵な朗読を聞いてると、私の読む女性側への、男性側の返事のようにも聞こえてきます。ラサール石井さんにヒントをたくさんいただいて、皆様の心に響く舞台になりますように！

中村雅俊



これまでテレビドラマなどで共演している気心の知れた真野響子さんと共に、特別な想いが綴られた恋文を皆様にお届けします。74歳になった今、残りの人生、限られた時間について考えることが増えました。今の年齢だからこそできる演技、伝えられることがあるように感じています。「恋文」にはさまざまな人生が綴られています。そうした人生の物語を疑似体験しつつ、ご自身がこれまで体験されてきたことに重ね合わせるなどして味わっていただきたいと思います。長岡の皆様と、この特別な時間を共にすることを楽しみにしております。

Profile

桐朋学園大学芸術学部演劇科卒業後、1973年、劇団民藝に入団。同年にはNHKドラマ「出会い」でテレビ俳優デビュー。76年、スコッチウイスキーのカレンダー出演は、洋酒メーカーの女優起用第1号。映画「燃える秋」ドラマ「御宿かわせみ」「ちゅらさん」「坂の上の雲」、大河ドラマ「風と雲と虹と」「篤姫」など、多くの映画、舞台に出演している。



ラサール石井

初演とは私の環境が激変しましたが、それにも関わらず、またお声をかけていただきまして光栄の至りです。

中村雅俊さん、真野響子さんという素晴らしいお二人のお力で、初演はとても評判がよく、かなりの好評価をいただきました。再演というのは作品がより深まり、また新たな発見もあり、役者にもスタッフにも最高の機会です。さらにブラッシュアップして長い「恋文」シリーズの中でも、極め付けになるべく、臨みたいと思います。

Profile

1973年、慶應義塾大学在学中、文学座附属演劇研究所に入所。1974年、NTV「われら青春!」の役に抜擢されデビュー。挿入歌「ふれあい」で歌手デビューし、売り上げが100万枚を超える。今までに役者として、TV連続ドラマの主演数は34本。歌手としてもコンスタントに曲を発表し、現在シングル55枚、アルバム42枚をリリース。デビューから毎年行う全国コンサートも1500回を超える。

Profile

渡辺正行、小宮孝泰と結成したお笑いトリオ「コント赤信号」で1980年にデビュー。その後、知性派タレントの代表として、バラエティ番組のバネラーや司会、情報番組のキャスターや、アニメの声優など、さまざまなフィールドで活躍。近年では、舞台・演劇活動にも力を入れ、俳優としての出演に留まらず、脚本・演出も数多く手がけている。

おとなのための朗読会 恋文

出演:中村雅俊 真野響子 / 音楽:黒木由香 / 構成・台本:ラサール石井

この公演は、秋田県二ツ井町(現能代市)が開催した「全国恋文コンテスト」に全国から届いた選りすぐりの手紙を台本にした朗読会です。

手紙に描かれている想いを、ラサール石井の巧みな演出により、書き手である主人公が目の前にいるかのような立体的なドラマとして浮かび上がらせられます。そして、名優 中村雅俊と真野響子が織りなす美しく温かな語りとピアノの生演奏で、心に響くラブレターを皆様にお贈りします。

12/4木 開場13:30 開演14:00

長岡リックホール シアター
全席指定 3,000円 U-25 1,000円

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※U-25をご購入の方は公演当日、年齢確認できるものをお持ちください。

中村雅俊と真野響子の朗読のあとには、演出のラサール石井を交えたトークショーもお楽しみください。普段聞けない舞台の裏話やそれぞれの魅力的な素顔も見どころのひとつです。

●第1部 / 朗読会 ●第2部 / トークショー

残りわずか



コンサートマスター 近藤 薫

オーケストラ公演(東京フィル特別演奏会)では長岡フェニックス合唱団や高校の吹奏楽部の皆さんなど地元の皆様と共演する機会がありました。現地でご一緒する時間は必ずしも長くはないのですが、一筋縄ではいかないような作品にも皆様が意識高く取り組まれていたことが伝わり、いつも感動させられています。コミュニティコンサートとして弦楽アンサンブルで市内各地を訪問し、新潟県立近代美術館などで演奏したことも印象に残っています。

東京フィルのメンバーが

長岡のみなさんと
触れ合い
感じたこと



トロンボーン奏者 石川 浩

長岡市と東京フィルの提携が始まって10年、毎年1~2回ほど長岡市を訪問しています。市内中学校の楽器ワークショップも行っていますが、1年の間を空けて同じ学校を担当することがあり、お互いに顔を覚えていたのと、何より生徒の皆さんが想像以上に上達していたことをとても嬉しく思いました。休憩中に、近くの有名なラーメン屋の話で盛り上がったのも楽しいひとときでした。このような交流を今後も続けられることを切に願います。



フルート首席奏者 神田 勇哉

東京フィルが東京以外で演奏する機会は長岡市が一番多いと感じています。私はオーケストラでの演奏以外に、吹奏楽の中高生の楽器ワークショップや、フルートの少人数アンサンブル演奏で市内の幼稚園、保育園、子育て支援施設巡りをさせていただきました。子どもたちと大きな声で歌う「トロロ」は今でも私のよき思い出です。この活動によって子どもたちみんなの心が豊かになってくれましたら嬉しく思います。



コンサートマスター 三浦 章宏

2015年に事業提携を開始し、最初のコミュニティコンサートが行われた長岡市議会の議場の弦楽アンサンブルに出演しました。たくさんの曲を取り上げていますが、コミュニティコンサートはお客様との距離が近く、反応を直に感じられます。その後も夢づくりコンサートやオーケストラコンサートなど様々な形で演奏会が行われ、たびたび訪問しており、地域の皆様がいままであたたかくおもてなしくださる事がとても印象的です。



コンサートマスター 依田 真宣

長岡市の皆様はいつもとても熱心で、さまざまな取り組みに真摯に取り組まれていると感じます。アウトリーチ公演では市内の公共施設などを訪問しますが、演奏機会の少ない楽曲でも世代を問わず集中力高く耳を傾けてくださることがいつも嬉しく、毎回の選曲も楽しみの一つになっています。お客様との距離が近く、楽器紹介などを通じ「お気に入り」の楽器ができたといった声を聞くことができることも嬉しいイベントの一つです。



コミュニティコンサート

小さい会場だったので「私のために演奏してもらっている!」と感動することができ、贅沢な時間を過ごせました。



わくわくコンサート

子ども(3歳3か月)も音楽に合わせて体を動かしたり、手をたたいたり楽しそうでした。和気あいあいとした雰囲気でも安心して楽しめる環境づくりがとてもよかったです。



《輝く未来のために》

音楽に励む子どもたちに特別レッスン
市内中学校の吹奏楽部を対象に、日本のトップ奏者である東京フィルのメンバーが「楽器ワークショップ」を行っています。コンクールでの成績を伸ばしている学校が増えています。

特集
東京フィルハーモニー交響楽団
事業提携10周年

音楽で
心通わせ
育む絆。

心豊かに過ごせる時間と場所づくりを目指し、長岡市芸術文化振興財団と長岡市は東京フィルハーモニー交響楽団と事業提携協定を締結しています。2015年に事業がスタートし、10年間様々な企画に取り組んできました。

《感動体験》

ホールで響く迫力の生演奏
世界トップレベルの指揮者やソリストとフルオーケストラによる「特別演奏会」と0歳児から気軽にクラシック音楽を楽しめる「わくわくコンサート」を毎年開催しています。

《地域との交流》

気軽に身近に、日常生活に音楽を一
市内のコミュニティセンターなどを東京フィルのメンバーが訪問。トーク付のフランクな雰囲気の「コミュニティコンサート」を楽しんでいただきました。

特別演奏会
お客様の声
マエストロの優雅でエネルギッシュにタクトを振る様子と合わせて、作曲家の音楽の世界に浸ることができました。生演奏ならではの時間を過ごせ、心の栄養を摂ることができました。



楽器ワークショップ

【生徒の声】自分が意識していなかったところまで教えてもらえました。楽器と触れ合うことがもっと楽しくなりそうです。
【教員の声】指導する際に迷うことがあるので、生徒の悩みに寄り添っていただき大変ありがたかったです。



東京フィルハーモニー交響楽団 長岡特別演奏会

今回の特別演奏会の目玉は何といってもマエストロ チョン・ミョンフンの紡ぐメンデルスゾーンの交響曲第3番。「スコットランド」の愛称で知られるこの交響曲は、メンデルスゾーンがスコットランドを旅行中に着想を得たことがきっかけとなり、完成までに13年もの年月を要して作曲されました。また、第3番はメンデルスゾーンが書いた最後の交響曲であり、彼の集大成とも言える作品です。8年ぶりに長岡に登場するチョン・ミョンフンにより色彩豊かに美しく導かれた名曲を会場でぜひご堪能ください。

令和8年 2/21(土) 開場13:15 長岡市立劇場 大ホール
開演14:00

「ウェーバー 歌劇『魔弾の射手』序曲
ブルッフ ヴァイオリン協奏曲第1番 ヴァイオリン:岡本誠司
メンデルスゾーン 交響曲第3番『スコットランド』

チケット発売中
全席指定
S席8,000円 A席6,000円



指揮者 チョン・ミョンフン



11/24(月)休

リリックホール コンサートホール
開場 / 13:30
開演 / 14:00

澤クワルテットコンサート ~フランスチェロ界の重鎮 アラン・ムニエ氏を迎えて~

全席指定3,000円 [U-25]1,000円 ※未就学児入場不可

日本屈指の弦楽四重奏団と 円熟のチェリストが織りなす 重厚な五重奏

フランス・チェロ界の至宝、アラン・ムニエさんは、80歳を過ぎてもなお、フランス、イタリアを中心に精力的に演奏活動やマスタークラスを続けています。日本では京都フランスアカデミーの講師として、また八王子でのカサド国際チェロコンクールの審査員長などでたびたび来日、私もこれまでピアノ三重奏や四重奏、またブラームスのヴァイオリンとチェロの二重協奏曲などで共演を重ね、彼の気品に溢れた素晴らしい音色や、軽妙洒脱なフレージングにいつも感銘を受けています。11月のリリックでは、澤クワルテットとしては初共演となりますが、「ポッケリーニのメヌエット」として有名な楽章を持つ弦楽五重奏曲と、ベートーヴェン後期弦楽四重奏に匹敵する芸術作品とも言われるシューベルトの超名曲が演奏されます。結成35年目にして、アマデウス・カルテットメンバー、イエルク・デーモス(Pf)、アルフレッド・プリンツ(Ci)などの伝説的巨匠との共演に新たな1ページが加わります。ご期待ください。【澤 和樹】



アラン・ムニエ(チェロ)



【澤クワルテット】左から澤和樹(第1ヴァイオリン)、市坪俊彦(ヴィオラ)、大関博明(第2ヴァイオリン)、林俊昭(チェロ)

プログラム

- ・ポッケリーニ:弦楽五重奏曲 ホ長調 作品11-5 G. 275
 - ・シューベルト:弦楽五重奏曲 ハ長調 D956
- ※プログラムは変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

2026
2/23(月)祝

リリックホール シアター
開場 / 13:30
開演 / 14:00

三遊亭白鳥&桃月庵白酒 二人会 -ダブルホワイト-

全席指定 3,800円 ※未就学児入場不可

〈リリックm.c.優先予約〉11/28(金) 〈一般〉11/29(土)



三遊亭 白鳥 きんゆうてい はくちょう

1963年、新潟県上越市生まれ。1987年7月、三遊亭円丈に入門し、二番目の弟子となる。前座名「にいがた」。1990年3月二ツ目に昇進し、「新潟」と改名。2001年9月、真打に昇進し、「三遊亭白鳥」を襲名。主に新作落語を中心に活動し、200本以上の作品を創作している。2022年には「笑点」の大喜利にゲスト出演し、注目を浴びている。

新作落語の首領「三遊亭白鳥」× 古典落語の伝承頭「桃月庵白酒」 中毒性あるふたりの落語は 抱腹絶倒間違いなし!

各地を笑いの渦に巻き込んでいる落語会が、いよいよ長岡にやってきます!

「ダブルホワイト」とは、名前に「白」がある落語家「三遊亭白鳥」と「桃月庵白酒」が2010年より定期的で開催している落語会です。風刺性にちよっぴりブラックな要素、そこに優しさや人間味溢れる巧みなストーリー展開...それぞれの芸風の違いを楽しめるふたりの世界は、皆様をとりこにすることでしょう。落語通も、落語デビューの方もぜひ足をお運びください。



桃月庵 白酒 とうげつあん はくしゅ

1968年、鹿児島県生まれ。1992年4月、五街道雲助師匠に入門。前座名「はたご」。1995年6月、二ツ目に昇進し、「喜助」と改名。2005年9月、真打に昇進し、三代目「桃月庵白酒」を襲名。毒をまぶした現代的なまくらからの古典落語を中心に活動し、寄席やホール落語会で人気を集めるほか、テレビや映画でも活躍している。

[表紙]9月10日に実施した「舞台美術ワークショップ」の様子。舞台芸術家 乗峯雅寛さん(文学座所属)を招き、演劇の奥深さを楽しく学びました。

Lyric Colors vol.17
〈2025年10月25日発行〉

発行(公財)長岡市芸術文化振興財団
〒940-2108 新潟県長岡市千秋3丁目1356番地6
TEL.0258-29-7715 <https://www.nagaoka-caf.or.jp/>

